



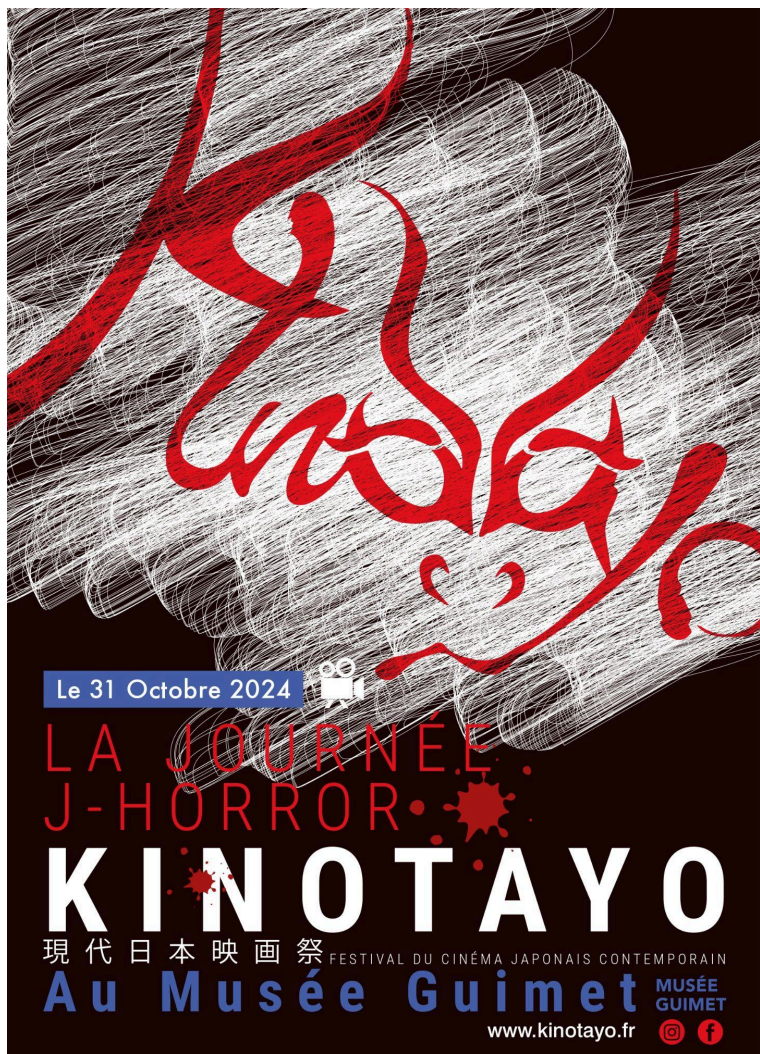
MUSÉE GUIMET

プレスリリース

パリ 2024年9月27日

ギメ東洋美術館にて「Jホラー・デー」開催！

10月31日、日本のホラー映画がギメ東洋美術館を恐怖の渦に巻き込む



10月31日のハロウィンデーに、ギメ東洋美術館およびKINOTAYO現代日本映画祭が映画ファンの皆さまを「Jホラー・デー」にご招待いたします。

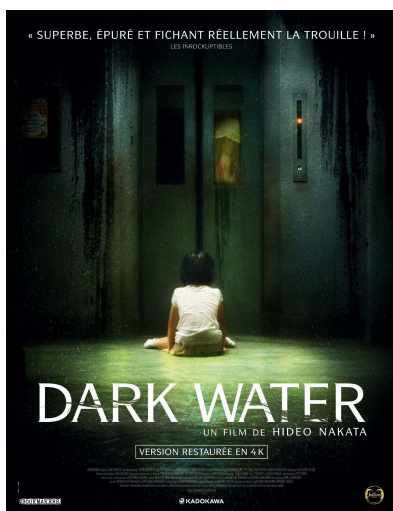
13時から深夜0時まで、ギメ東洋美術館付属の劇場にて長編作品4本の上映を予定しております。

上映する作品は、中田秀夫監督の『仄暗い水の底から』と『リング』の2作、上田慎一郎監督の『カメラを止めるな!』、そして石橋義正監督の『唄う六人の女』です。

また、会場には仮装してお越し頂けます。当日の夜に優勝者が発表される**仮装コンテスト**を開催予定ですので、奮ってご参加ください。

このイベントは、ギメ東洋美術館とKINOTAYO映画祭の新たなパートナーシップを記念するものとなります。

「Jホラー・デー」上映プログラム一覧



13:00 - 『仄暗い水の底から』(2002)

中田秀夫 監督 102分

離婚調停中であり、娘・郁子の親権を夫・邦夫と争っている淑美は生活を立て直そうと郁子と東京の古びたマンションに引っ越すが、すぐに奇妙な出来事が起こり始める。不可解な子供の足音、大きくなる天井のシミや酷い雨漏り。不穏な「なにか」を感じ始めたある日、郁子は屋上で赤い子供用のバックを見つける。

『リング』で成功を収めた中田秀夫は、今回もその緻密な演出、効果的な音響デザインを維持しつつ、登場人物の心理描写をさらに深く掘り下げている。

15:30 - 『唄う六人の女』(2023)

石橋義正 監督 113分 **フランス初公開**

亡くなった父が遺した山を売るために生家に戻った萱島と、その土地を買いに来た開発業者の下請けの宇和島。契約の手続きを終え、人里離れた山道を車で帰る途中に、二人は事故に遭い気を失ってしまう。目を覚ますと、そこには魅力的で危険な六人の女がいた。禁じられた森の中で迷った男たちは、この場所からの脱走を図るが……。

美しく作り込まれた映像美の中、人間による自然破壊を批判しつつ、ホラー要素を取り込みながらも分類不可能な作品を作り上げた本作。『夏の夜の夢』を彷彿とさせる本作では、萱島—あるいは観客自身が—自らのルーツを探し求める。



19:30 - 『カメラを止めるな!』(2017)

上田慎一郎 監督 96分

山奥の廃墟でゾンビ映画を撮影していた自主映画の撮影隊。本物を追求しこだわる監督は中々OKを出さず、テイクは42テイクに達する。そんな中、撮影隊に本物のゾンビが襲いかかり…。37分ワンシーン・ワンカットで描くノンストップ・ゾンビサバイバル!

クチコミが瞬く間に拡がり、わずか2館から300館以上に公開規模が拡大した本作。劇場長編デビュー作、製作費300万円の低予算映画ながら、興行収入30億円・観客動員数220万人を突破する大ヒットを記録し、社会現象となる。2022年

にはフランスで『カメラを止めるな!』という題名でリメイクもされた。

22:30 - 『リング』(1998)

中田秀夫 監督 96分

1990年代後半の東京で、ある噂が若者の間で広まる。それは、謎のビデオテープを視聴すると、7日後に必ず死ぬというもの。巷で相次ぐ突然死に「呪いのビデオ」が関わっているとの噂を信じきれないテレビディレクターの浅川玲子。だが姪の死をきっかけに、彼女はビデオに隠された謎を追い始めるが、やがて自分自身も呪いにかかってしまう。

鈴木光司の同名小説『リング』を原作とする映画作品。配給収入10億円を記録するヒット作品となり、後に続くジャパニーズホラーブームの火付け役となった。



仮装コンテスト

ぜひお気に入りのキャラクターに仮装して本イベントにご参加ください。素晴らしいコスチュームでお越しいただいた上位5人の方々には、景品もご用意しております。

新たなパートナーシップ

本イベントは、ギメ東洋美術館との新たなパートナーシップを結んだ記念として開催されます。また**12月1日から5日まで**、同館にて第18回KINOTAYO日本現代映画祭オフィシャルコンペティション選出作品の上映も行います。一部上映後は監督の方々をご招待し、作品解説や観客との談論タイムも予定しております。

第18回映画祭は2024年11月23日から12月14日に開催されます。

連絡先

ヌシャ・サンマルタン (Nousha Saint-Martin) - 会長兼総括部長: ns.kinotayo@gmail.com

メリッサ・レイモン (Mélisha Reymond) - コミュニケーションマネージャー : mr.kinotayo@gmail.com

ギメ東洋美術館: communication@guimet.fr

SNS等はこちらから

[ニュースレター](#) | [Facebook](#) | [Instagram](#) | [X](#) | [Linkedin](#)

メディア関係者の皆様へ: ジャーナリストやブロガーとして本イベント取材したい方は、**ぜひこちらからお申し込みください!**